

冬春野菜等の需要に応じた生産の推進について (令和7年度冬春野菜等の需給ガイドライン)

令和7年6月

農林水産省農産局園芸作物課

野菜価格安定制度における計画生産・計画出荷の仕組み

- 需要に即した計画的な生産・出荷を推進するため、国は指定野菜について概ね5年ごとに需要及び供給の見通しを策定するとともに、年2回(冬春・夏秋)需給ガイドラインを策定。この需給ガイドラインを目安として、出荷団体等は、供給計画を作成し、計画に即した野菜の出荷に努める仕組み。
- 供給計画に即した出荷がなされるよう、指定野菜価格安定対策事業においては、供給計画と出荷実績との乖離度に応じて生産者補給交付金を減額する措置のほか、前年度の価格低落時における需給調整の取組実績等に応じて補填率に差を設ける措置を導入。

需要及び供給の見通し(国)

(概ね5年ごとに策定)

指定野菜の種別ごとに、概ね5年後の需要量、供給量、国内産供給量の見通しを策定

需給ガイドライン(国)

(毎年、6月:冬春野菜、12月:夏秋野菜に策定)

直近の需給動向等を踏まえ、種別ごとに次期作の需要量、供給量、国内産供給量の見通し、作付面積の指標を策定

供給計画(出荷団体等)

需給ガイドラインを目安とし、種別ごとに年2回策定(播種・定植前の当初計画、出荷前の確定計画)

指定野菜価格安定対策事業における措置

① 供給計画の作成を加入要件とする(契約野菜収入確保モデル事業を除く)

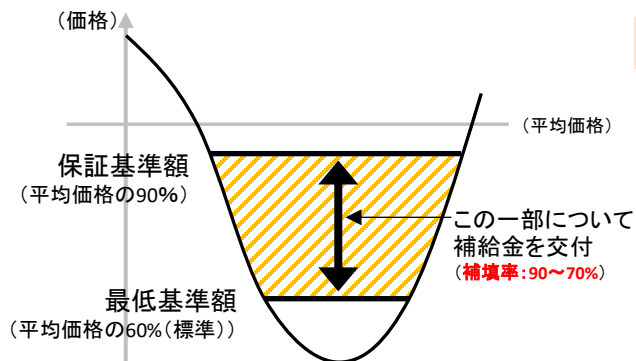
② 供給計画と出荷実績との乖離度に応じて交付金を減額

<供給計画と出荷実績の乖離度合い>

~	△60%	△50%	△40%	△30%	△20%	0	+20%	+30%	+40%	+50%	+60%	~
減額率 60%	減額率 50%	減額率 40%	減額率 30%	減額率 20%	減額なし		減額率 20%	減額率 30%	減額率 40%	減額率 50%	減額率 60%	

※ ±20%から±60%まで±10%間隔で乖離度合いを区分し、減額率は0~60%。

③ 過去3年の供給計画と出荷実績の乖離度や、緊急需給調整事業の取組実績等に応じて、生産者補給交付金の補填率を設定



補填率90%(産地区分Ⅰ)となる場合

以下の①・②の両方を満たす出荷団体

- ① 次のa又はbに該当すること
a. 産地強化計画(加工・業務用推進タイプ)を策定
b. 産地強化計画を策定し、直近3か年の計画的出荷割合が基準を満たす※
- ② 前年度において、対象品目の価格が緊急需給調整事業の発動価格以下となった際、対象品目の出荷があり、かつ、緊急需給調整事業を実施したこと

※ 直近3年の各年の計画的出荷割合 < 120/100、かつ、計画的出荷割合の直近3年平均 < 110/100

令和7年度冬春野菜等の需給ガイドライン(概要)

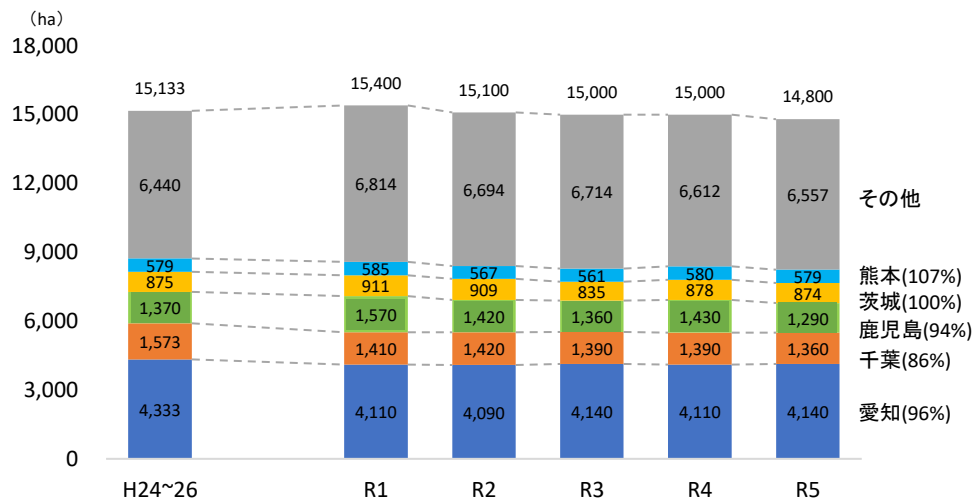
- 需給動向や人口、単収等のすう勢を基に、有識者の意見も踏まえつつ、指定野菜に係る「需給ガイドライン」を策定。
- 令和7年度冬春野菜等の需給ガイドラインでは、多くの品目において、供給量が減少していることを踏まえ、現状のすう勢値等を基に直近の作付面積実績と近い作付面積指標を提示。一部の品目においては、価格の低落が常態化しており、引き続き需要に応じた出荷に取り組むことが重要。
- 近年、夏秋季の高温の影響による初期生育不良、暖冬の影響による出荷集中とその後の出荷減少によって、大幅な価格の変動が発生していることから、計画に即した出荷が可能となるよう安定供給体制の構築が必要。

種別等	需要量(t)	供給量(t)	国内産供給量(t)	作付面積(ha)	前年度実績比	
					前年度実績比	前年度ガイドライン比
冬キャベツ	417,200	591,400	587,800	14,800	100.0%	99.3%
春キャベツ	247,000	350,200	347,200	8,590	100.0%	98.2%
冬春きゅうり	258,800	284,000	269,700	2,440	100.0%	98.0%
秋冬だいこん	649,600	767,800	758,000	18,100	100.0%	96.3%
春だいこん	161,900	191,400	186,000	3,920	100.0%	96.3%
たまねぎ	1,272,000	1,487,000	1,123,100	23,100	92.8%	99.6%
うち北海道産	743,900	869,700	720,800	12,800	87.7%	100.0%
うち都府県産	528,100	617,300	402,300	10,300	100.0%	99.0%
冬春トマト	307,900	369,100	366,700	3,560	100.0%	97.5%
うち大玉トマト	221,400	265,400	263,700	2,390	100.0%	96.0%
うちミニトマト	86,500	103,700	103,000	1,170	100.0%	100.9%
冬春なす	99,800	115,600	114,500	1,020	100.0%	99.0%
冬にんじん	290,900	319,000	232,600	7,300	100.0%	98.4%
春夏にんじん	224,200	245,800	149,500	3,770	100.0%	95.9%
春ねぎ	61,800	90,200	77,600	3,350	100.0%	100.6%
夏ねぎ	68,000	99,300	86,000	4,710	100.0%	99.8%
秋冬はくさい	459,200	574,700	574,300	11,600	100.0%	99.1%
春はくさい	93,700	117,300	116,900	1,770	100.0%	98.3%
ばれいしょ	1,786,600	2,213,000	1,142,300	71,400	100.3%	99.9%
冬春ピーマン	68,100	84,300	73,000	690	100.0%	98.6%
冬ブロッコリー	54,800	132,000	87,500	8,680	—	—
春ブロッコリー	20,100	48,500	29,400	2,910	—	—
ほうれんそう	221,300	267,200	200,300	18,700	100.0%	98.9%
冬レタス	145,100	178,400	174,900	7,250	100.0%	98.4%
春レタス	86,200	106,000	105,800	3,730	100.0%	100.3%

冬キャベツの生産・価格等動向①

- 愛知、千葉、鹿児島で全体出荷量の約5割を占める。10年前と比較し、全体作付面積は横ばいで、全体出荷量は増加。主産県では、千葉の作付面積・出荷量が減少した一方で、愛知、鹿児島、茨城の出荷量が増加。
- 年によって変動があるが、加工・業務用に主に中国から毎年一定量が輸入されている。国産の不作時に代替として輸入量が増える傾向。

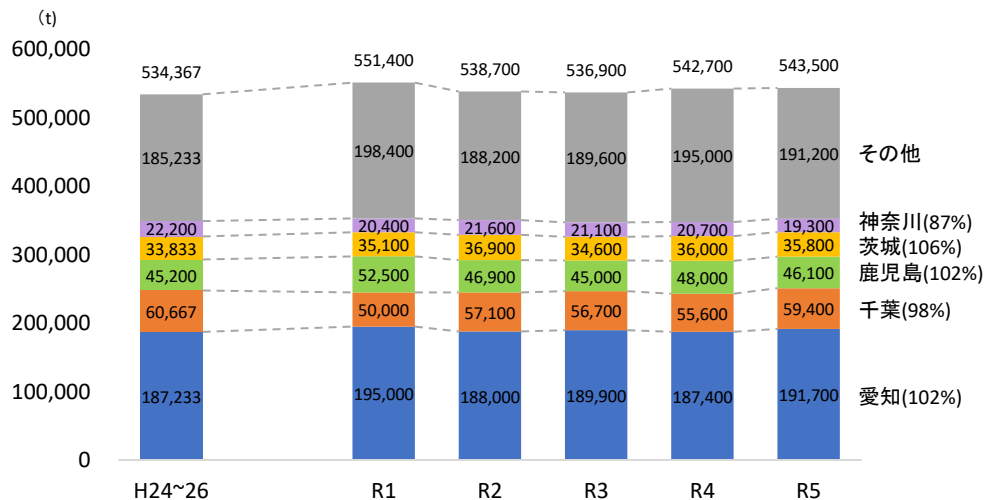
1. 作付面積の推移



出典：野菜生産出荷統計

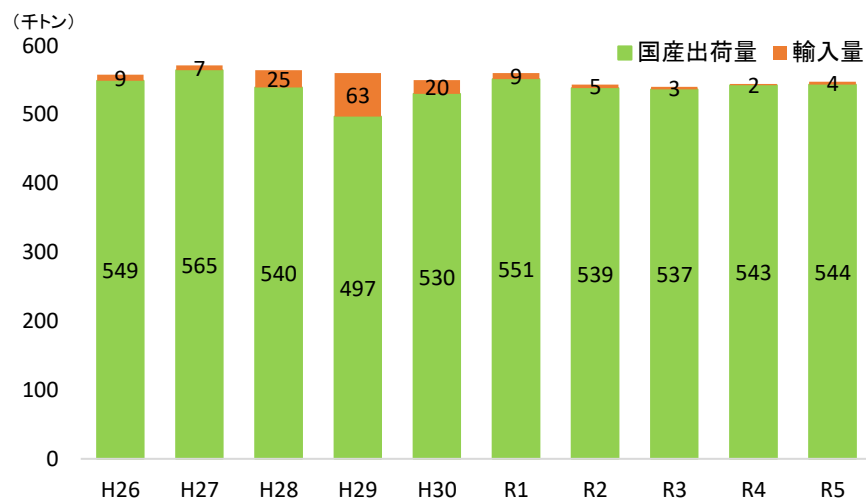
※比率はH24~26年平均との比較

2. 出荷量の推移



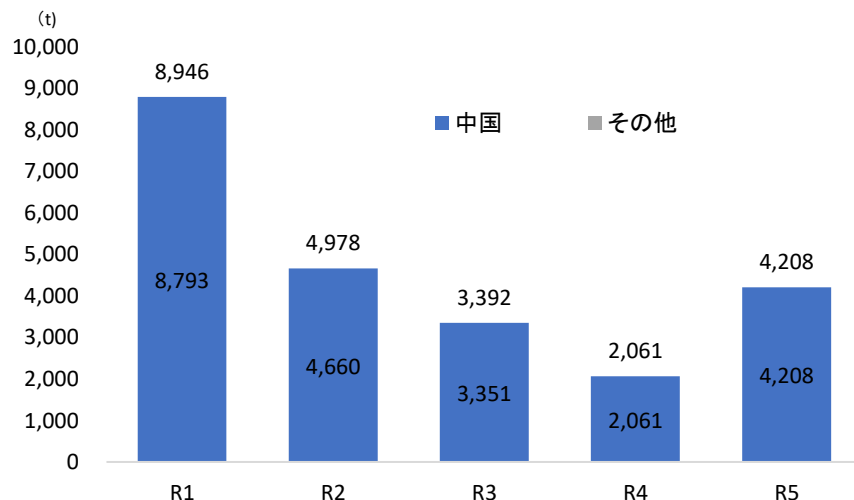
出典：野菜生産出荷統計

3. 出荷量と輸入量



出典：貿易統計・野菜生産出荷統計

4. 輸入先国の内訳

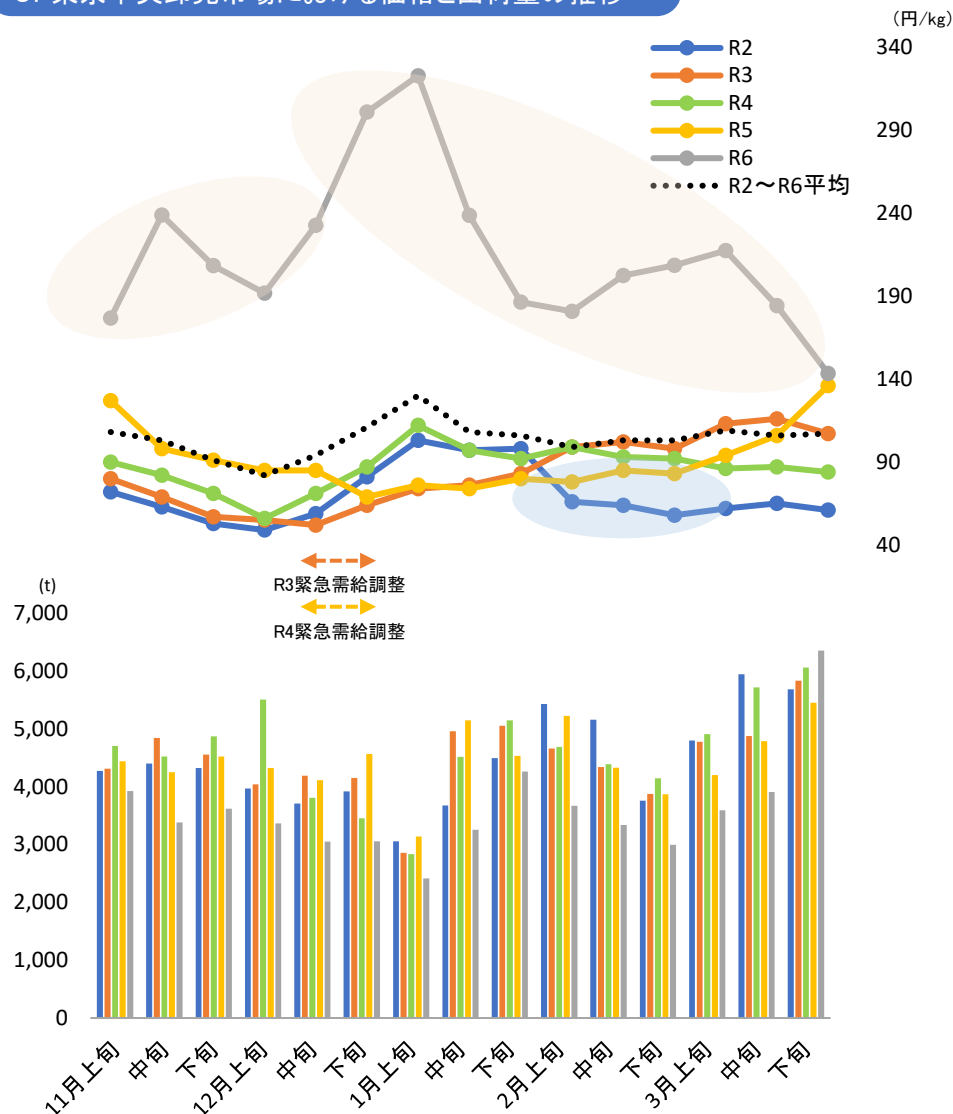


出典：貿易統計・野菜生産出荷統計

冬キャベツの生産・価格等動向②

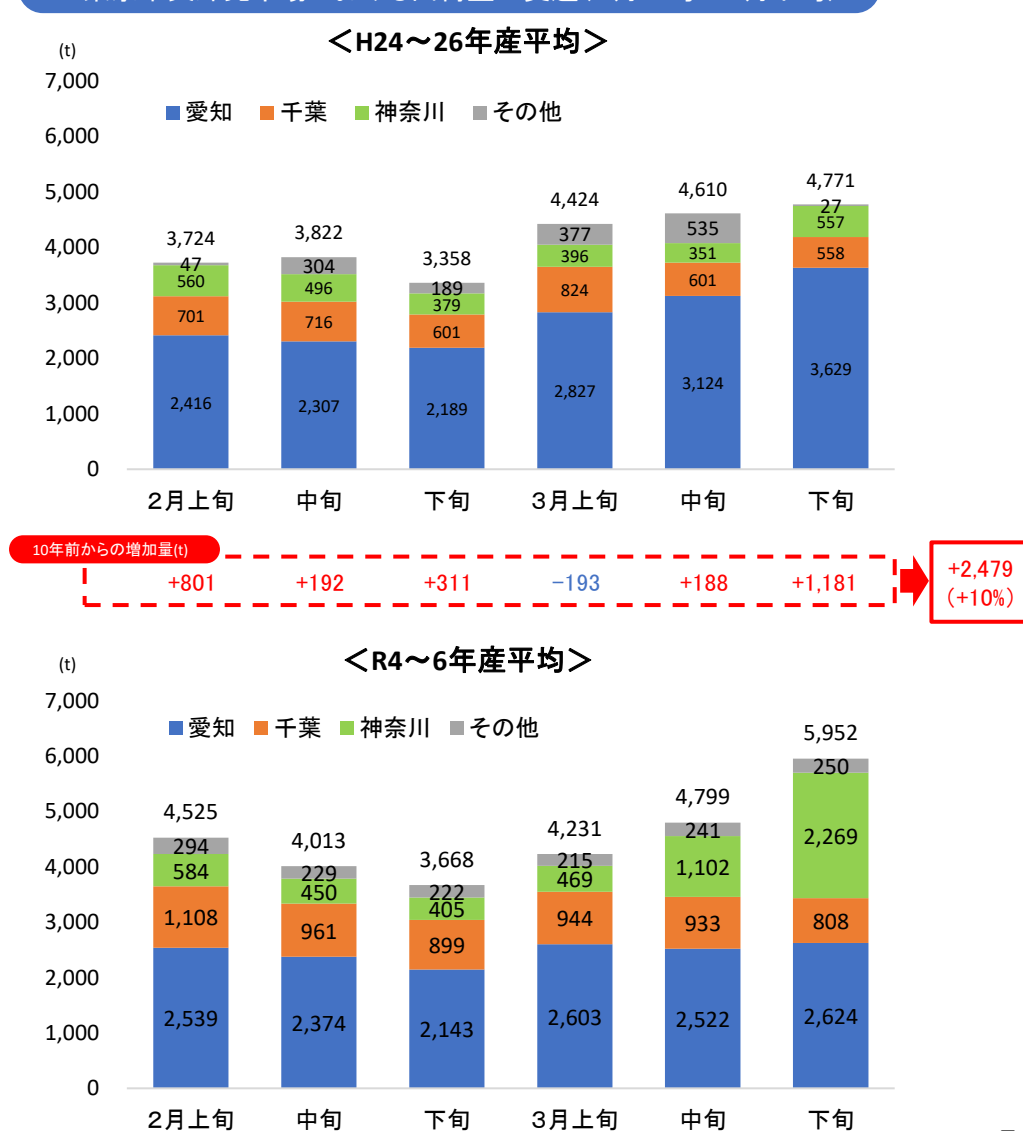
- 暖冬等の影響によって生育が前進傾向となり、1月から2月が安値となる一方、3月は高値となる傾向。
- 令和3年産、4年産の2年連続で緊急需給調整事業を発動。
- 令和6年産は夏秋季の高温、12月から2月にかけての少雨の影響により、出荷量が減少し、価格が高騰。

5. 東京中央卸売市場における価格と出荷量の推移



出典：青果物卸売市場調査

6. 東京中央卸売市場における出荷量の変遷(2月上旬～3月下旬)

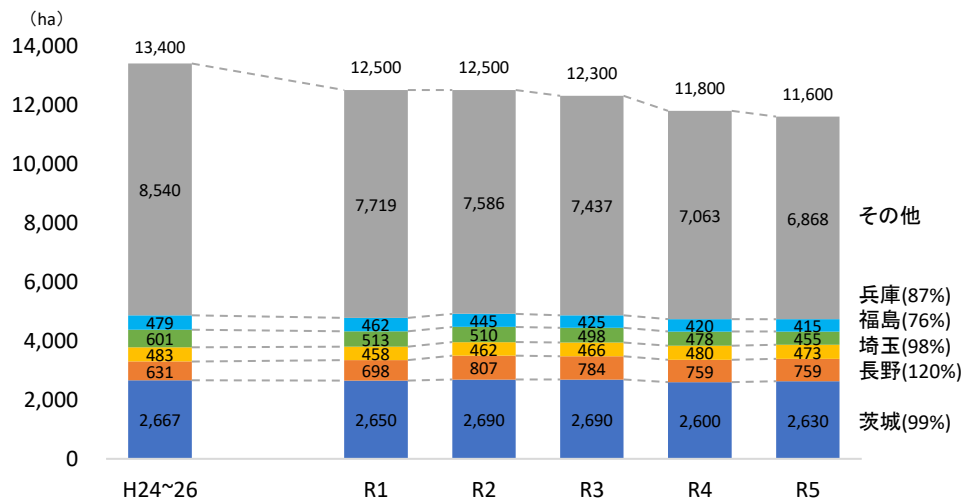


出典：野菜生産出荷統計

秋冬はくさいの生産・価格等動向①

- 茨城、長野で全体出荷量の約5割を占める。10年前と比較し、全体作付面積は減少しているものの、全体出荷量は横ばい。主産県では、茨城、埼玉の作付面積・出荷量は微減。長野は作付面積・出荷量ともに大きく増加している。
- はくさい(生鮮)の輸入量は極少量であり、国内供給のほぼ100%が国産品となっている。

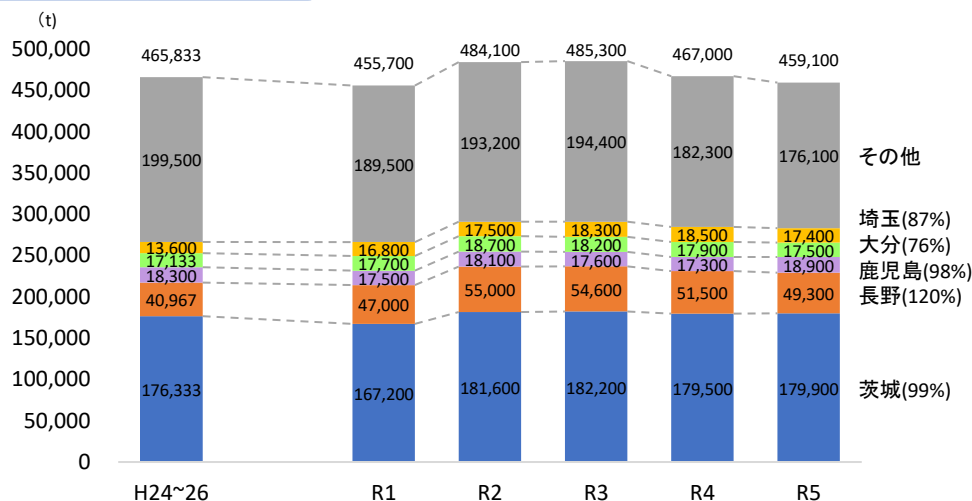
1. 作付面積の推移



出典：野菜生産出荷統計

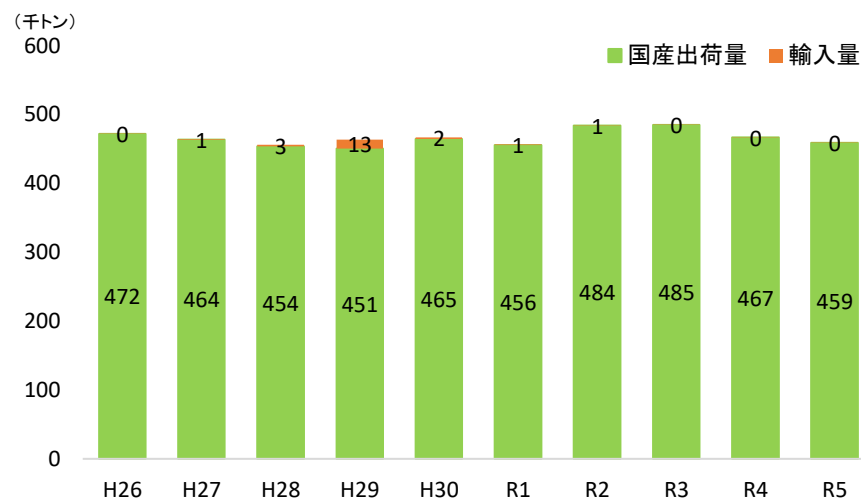
※比率はH24~26年平均との比較

2. 出荷量の推移



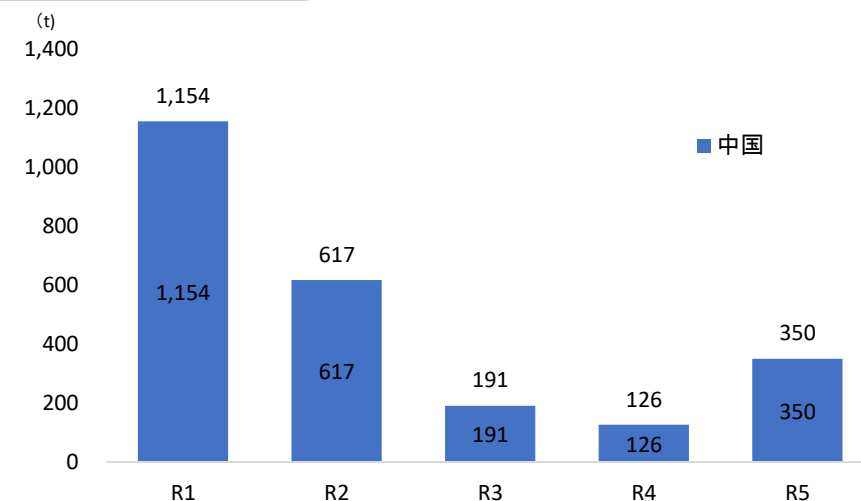
出典：野菜生産出荷統計

3. 出荷量と輸入量



出典：貿易統計・野菜生産出荷統計

4. 輸入先国の内訳

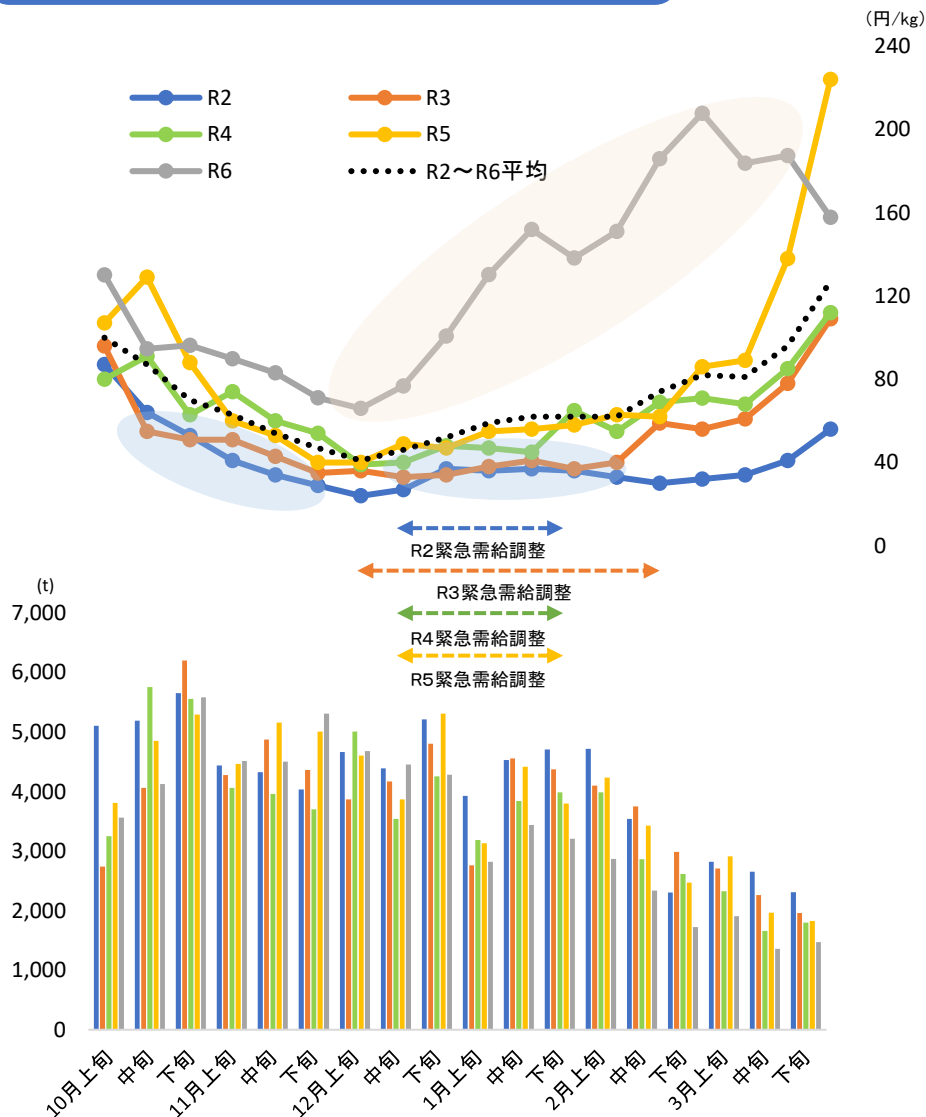


出典：貿易統計・野菜生産出荷統計

秋冬はくさいの生産・価格等動向②

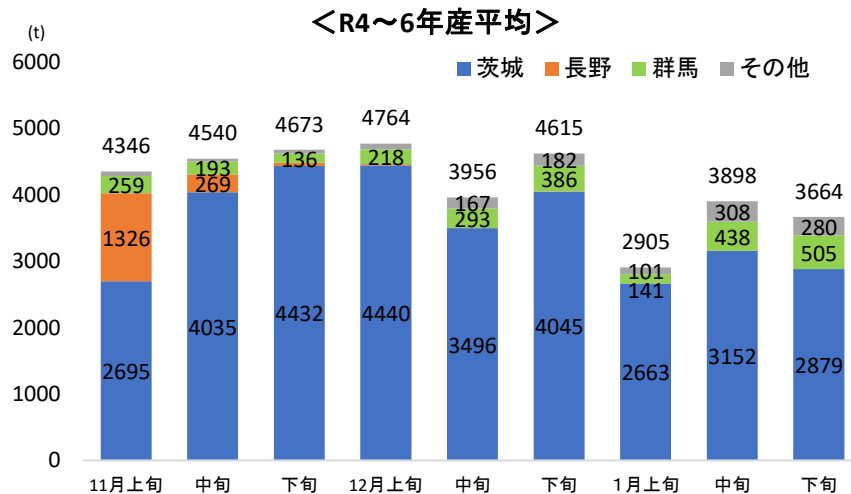
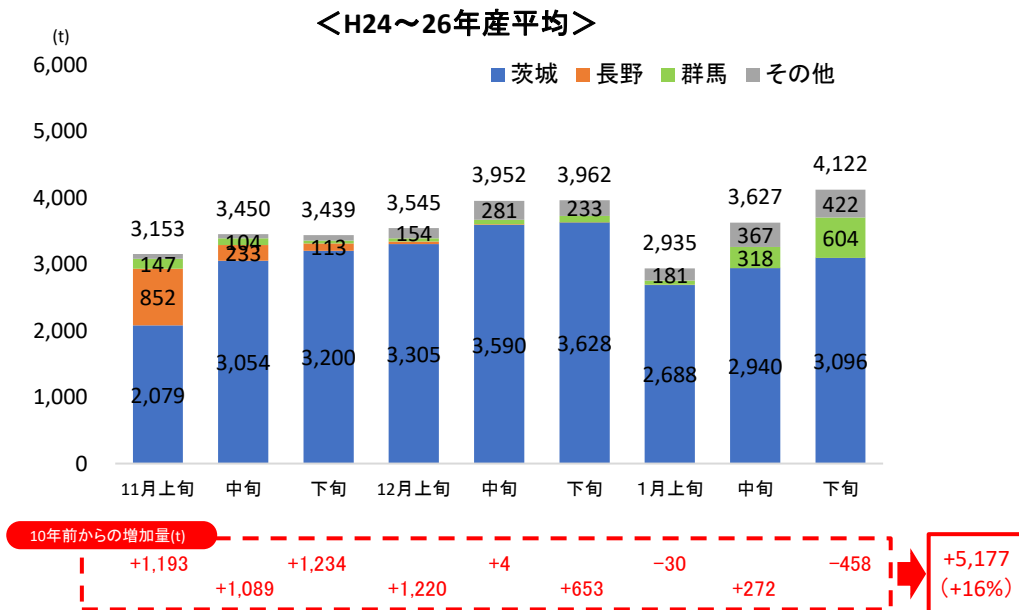
- 全般的には、夏はくさいの残量と秋冬はくさいの出始めが重なることによって10月の出荷量が増加し安値となるほか、近年は暖冬等の影響によって12月から1月の価格が低落傾向にあり、令和2年産から5年産にかけて4年連続で緊急需給調整事業を発動。
- 令和6年産は夏秋季の高温の影響による他の葉物野菜の出荷量の減少、12月から2月にかけての少雨の影響により、出荷量が減少し、価格が高騰。

5. 東京中央卸売市場における価格と出荷量の推移



出典：青果物卸売市場調査

6. 東京中央卸売市場における出荷量の変遷(11月上旬～1月下旬)

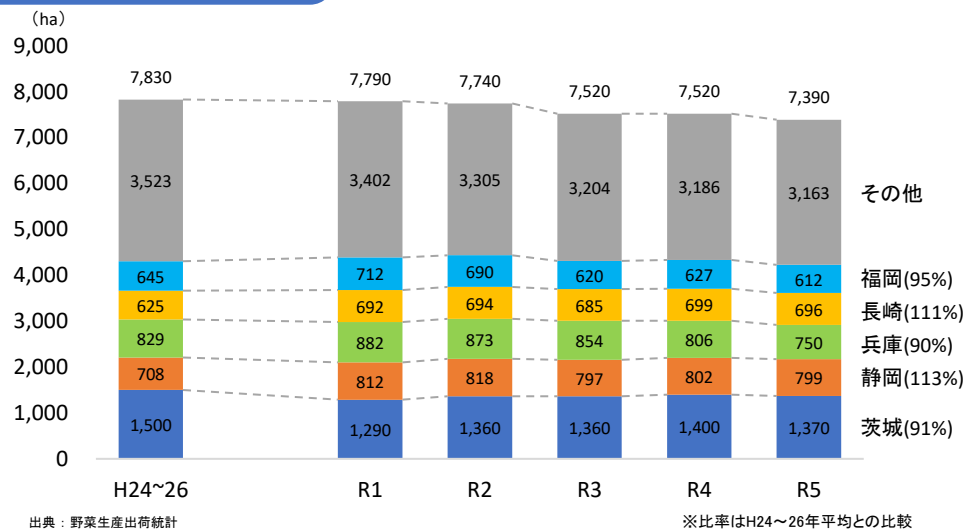


出典：野菜生産出荷統計

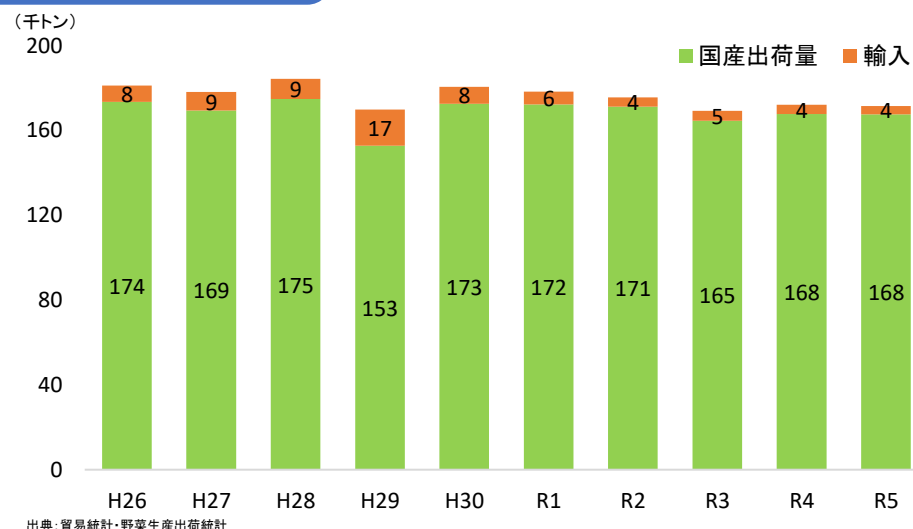
冬レタスの生産・価格等動向①

- 茨城、長崎、静岡、兵庫、熊本で全体出荷量の約7割を占める。10年前と比較し、全体作付面積は減少、全体出荷量は横ばい。主産県では、兵庫の作付面積・出荷量が減少する一方、静岡、長崎は大幅に増加。
- 国内生産量に比べると極少量ではあるが、加工・業務用に主に台湾から結球レタス、米国から非結球レタス（ロメインレタス等）が輸入されている。国産の不作時に代替として輸入量が増える傾向。

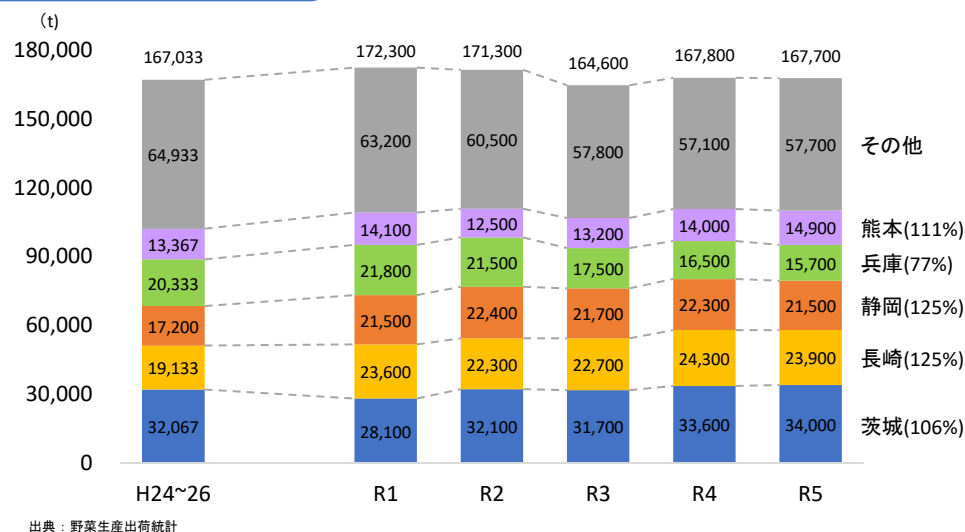
1. 作付面積の推移



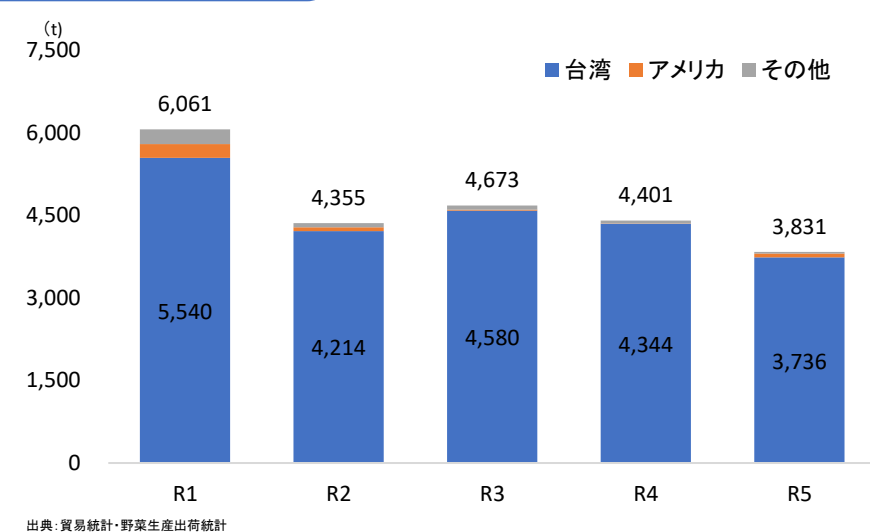
3. 出荷量と輸入量



2. 出荷量の推移



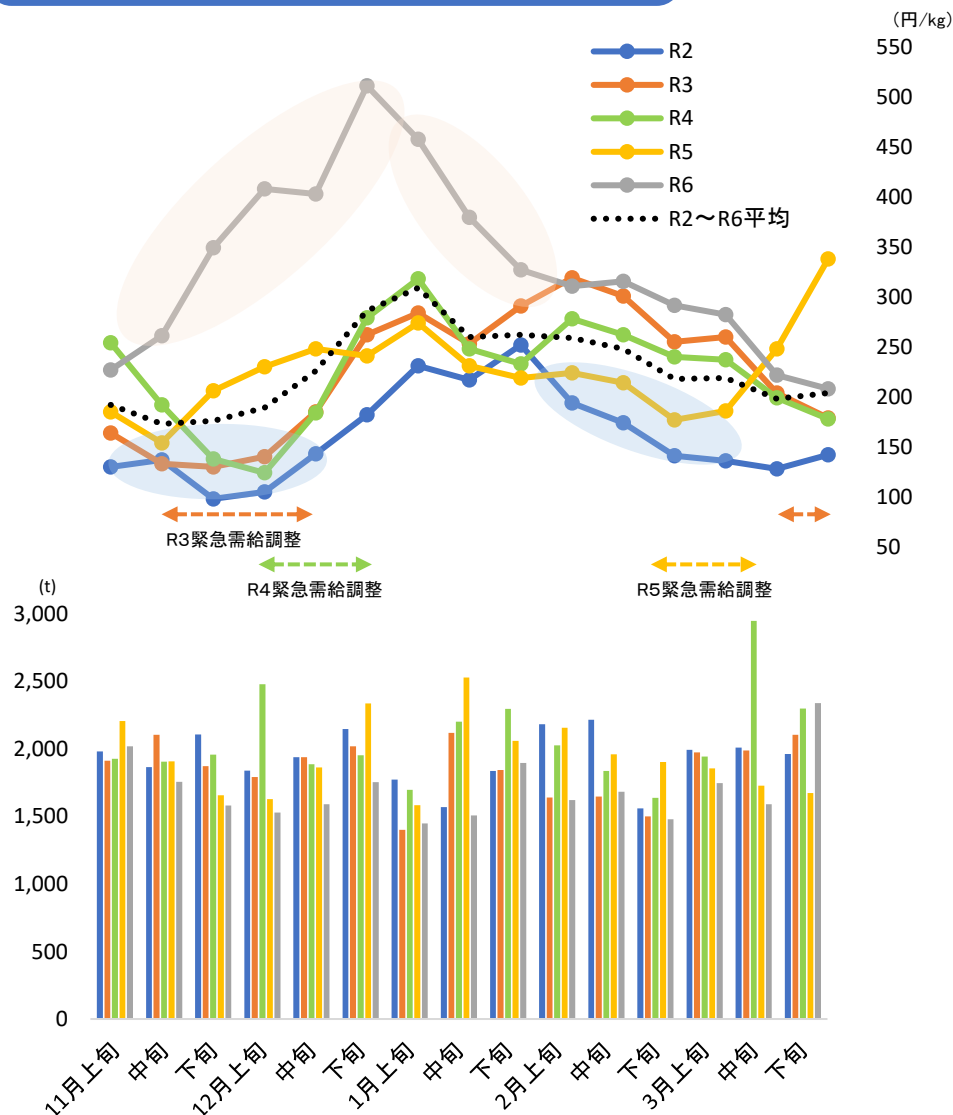
4. 輸入先国の内訳



冬レタスの生産・価格等動向②

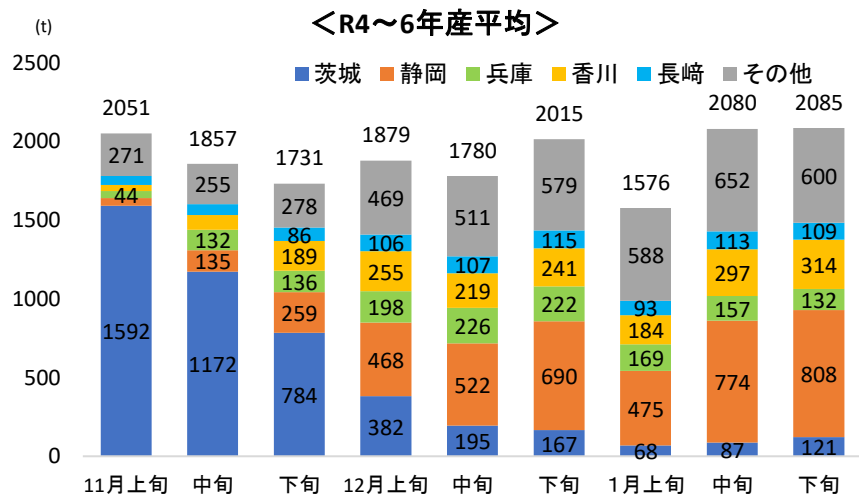
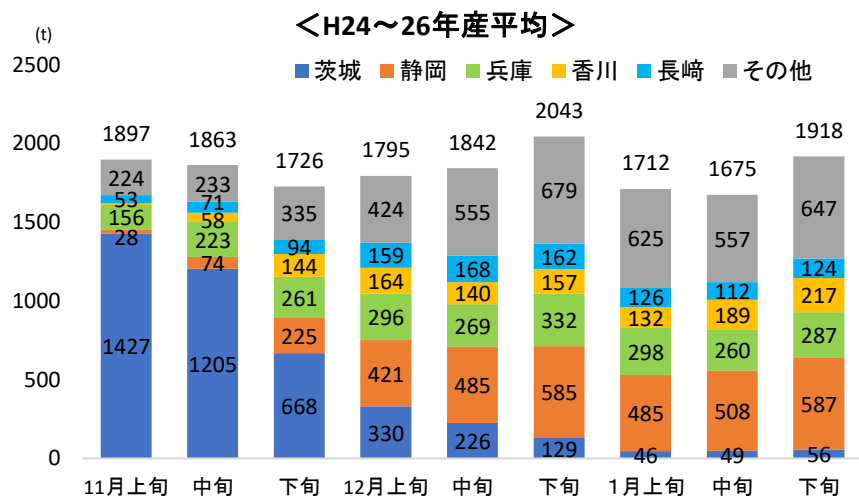
- 11月から12月前半、1月後半から2月にかけては出荷量が増加し、安値が続く年が多い傾向。令和3年産から5年産にかけて3年連続で緊急需給調整事業を発動。
- 令和6年産は夏秋季の高温、12月から2月にかけての少雨の影響により、出荷量が減少し、価格が高騰。

5. 東京中央卸売市場における価格と出荷量の推移



出典：青果物卸売市場調査

6. 東京中央卸売市場における出荷量の変遷(11月上旬～1月下旬)

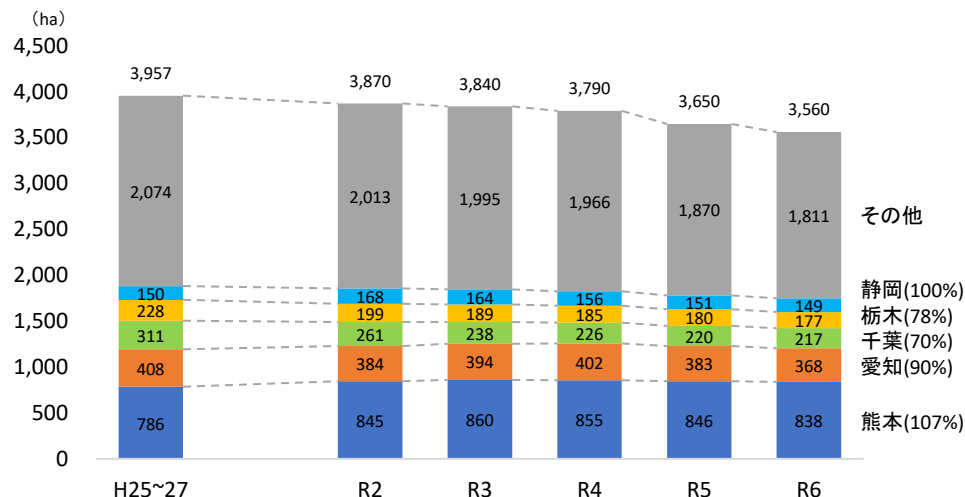


出典：野菜生産出荷統計

冬春トマトの生産・価格等動向①

- 熊本、愛知、栃木で全体出荷量の約5割を占める。10年前と比較し、全体作付面積・全体出荷量は微減。主産県では、愛知、千葉、栃木は作付面積が減少した一方、熊本は作付面積・出荷量ともに増加。
- 生鮮トマトの輸入量は2000から4000トン程度と極少量。輸入量の大半は韓国産。

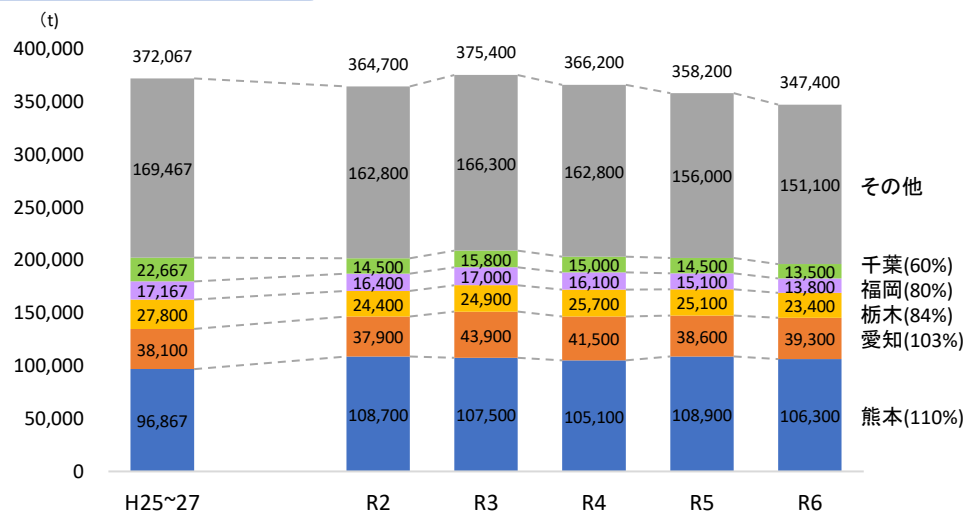
1. 作付面積の推移



出典：野菜生産出荷統計

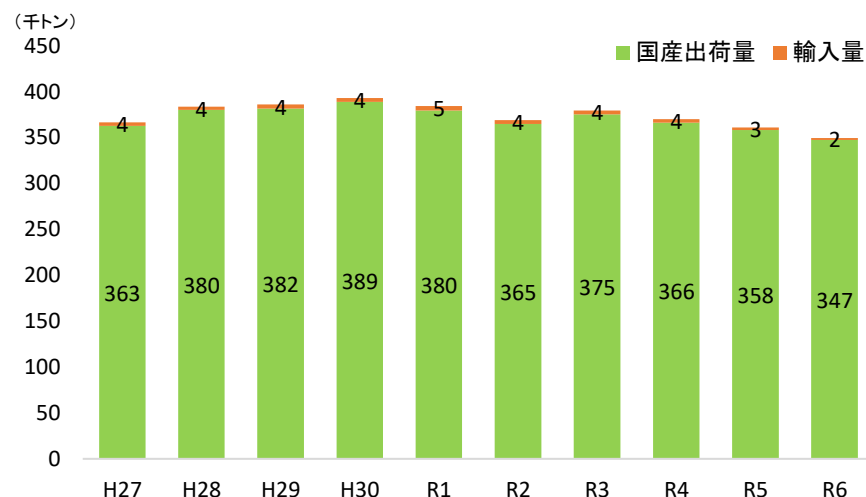
※比率はH25～27年平均との比較

2. 出荷量の推移



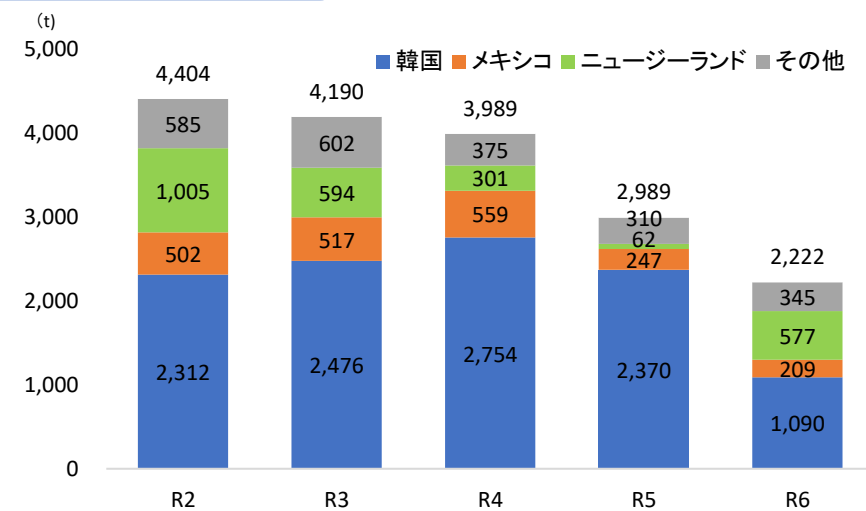
出典：野菜生産出荷統計

3. 出荷量と輸入量(生鮮)



出典：貿易統計・野菜生産出荷統計

4. 輸入先国の内訳(生鮮)

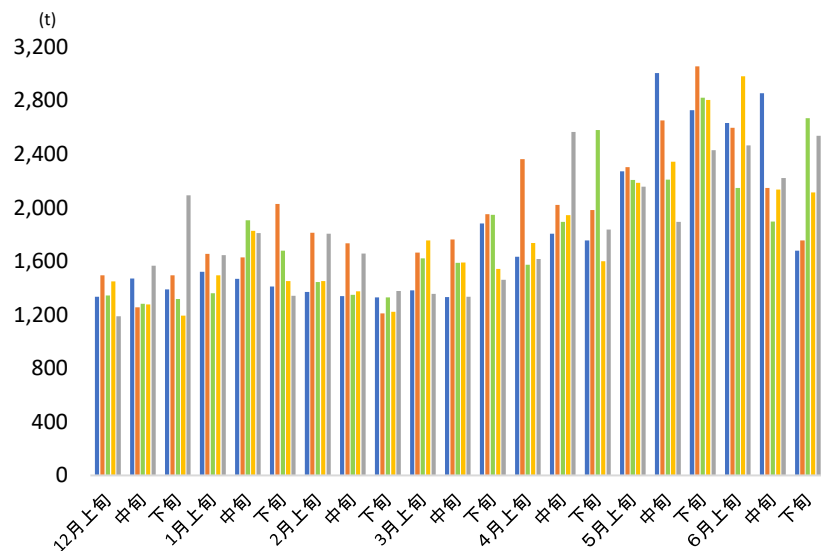
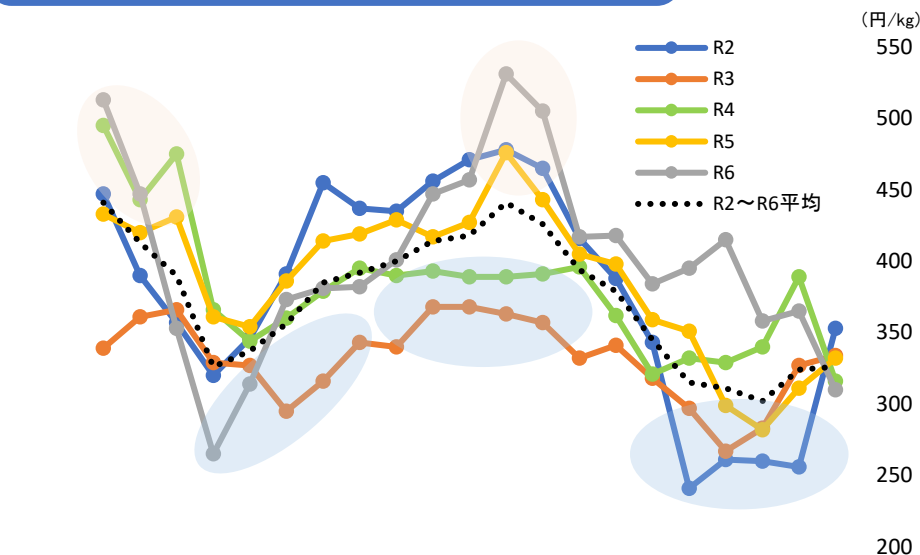


出典：貿易統計・野菜生産出荷統計

冬春トマトの生産・価格等動向②

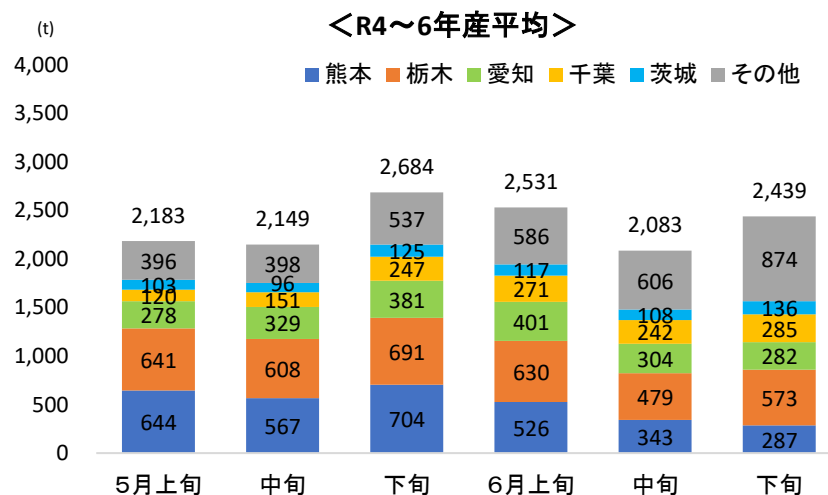
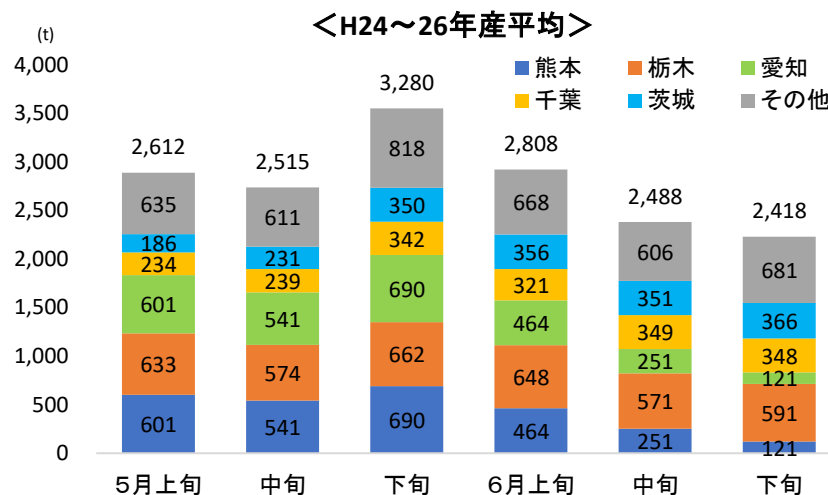
- 令和4年、令和6年の12月は夏季の高温の影響により、高値傾向で推移。
- 暖冬等の影響によって生育が前進傾向となる1月から2月や、夏秋作と重複する5から6月において安値となる年が多くなる傾向がある。

5. 東京中央卸売市場における価格と出荷量の推移



出典：青果物卸売市場調査

6. 東京中央卸売市場における出荷量の変遷(7月上旬～10月下旬)

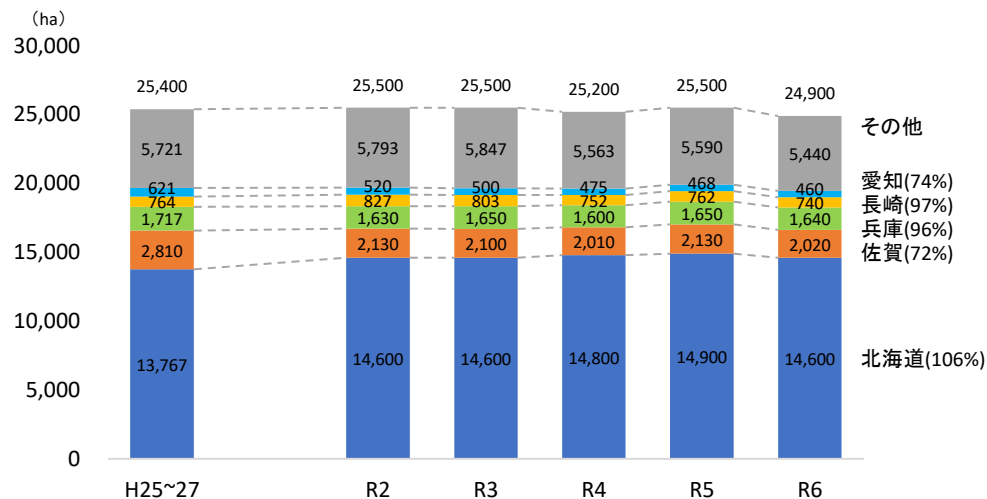


出典：野菜生産出荷統計

たまねぎの生産・価格等動向①

- 北海道、佐賀、兵庫で全体出荷量の約8割を占める。10年前と比較し、全体作付面積・全体出荷量は横ばい。主産県では、北海道の作付面積・出荷量がともに増加した一方、佐賀、兵庫、長崎、愛知は作付面積・出荷量ともに減少。
- 生鮮たまねぎの輸入量は年25から30万トン程度で推移しており、その約95%が中国からの輸入。乾燥たまねぎは10万トン前後で推移しており、主にアメリカ、エジプト、中国からの輸入。

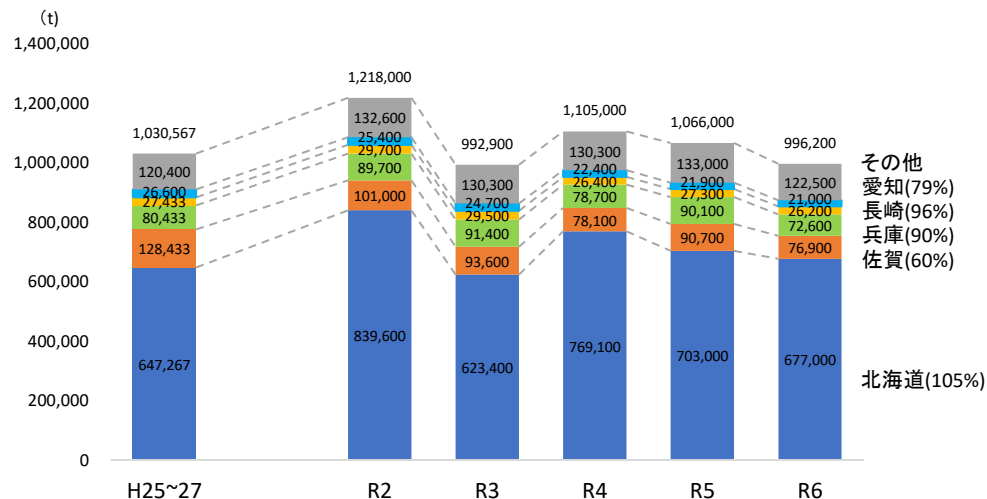
1. 作付面積の推移



出典：野菜生産出荷統計

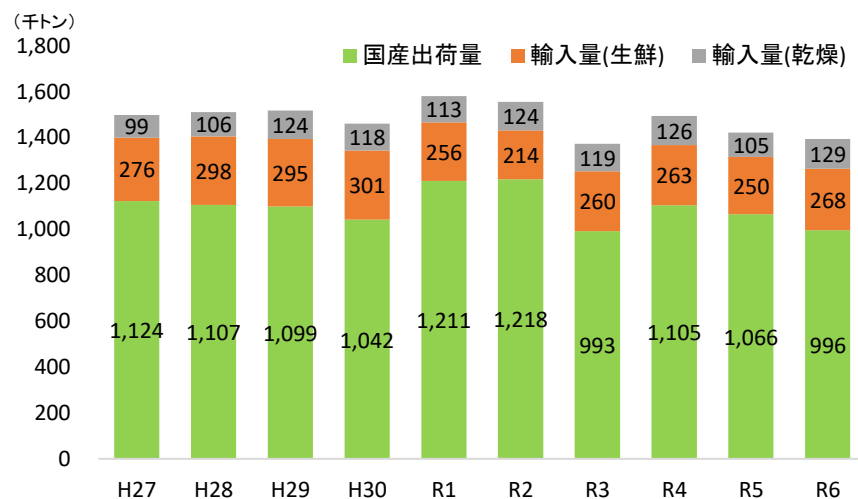
※比率はH25～27年平均との比較

2. 出荷量の推移



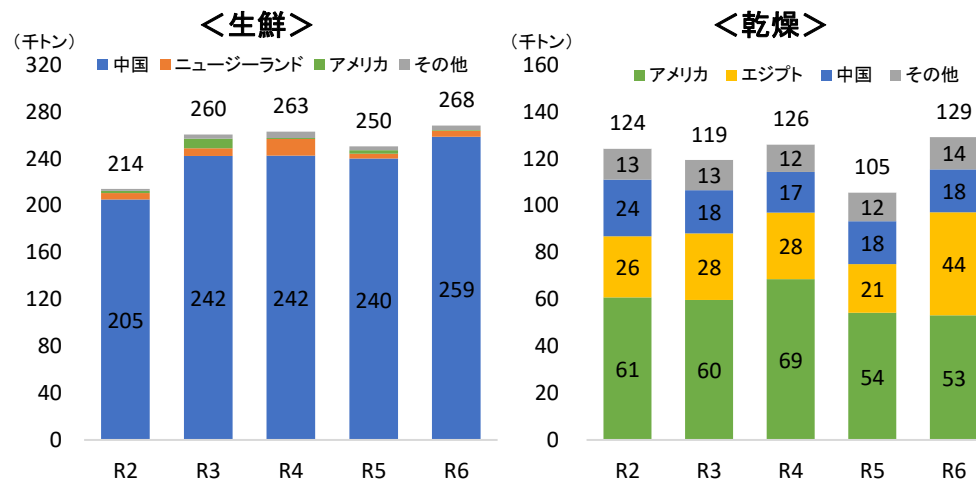
出典：野菜生産出荷統計

3. 出荷量と輸入量



出典：貿易統計・野菜生産出荷統計

4. 輸入先国の内訳

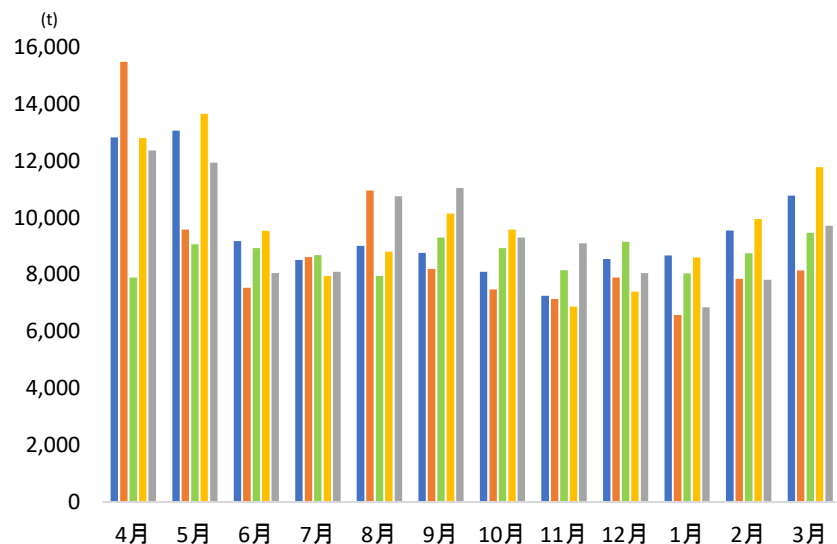
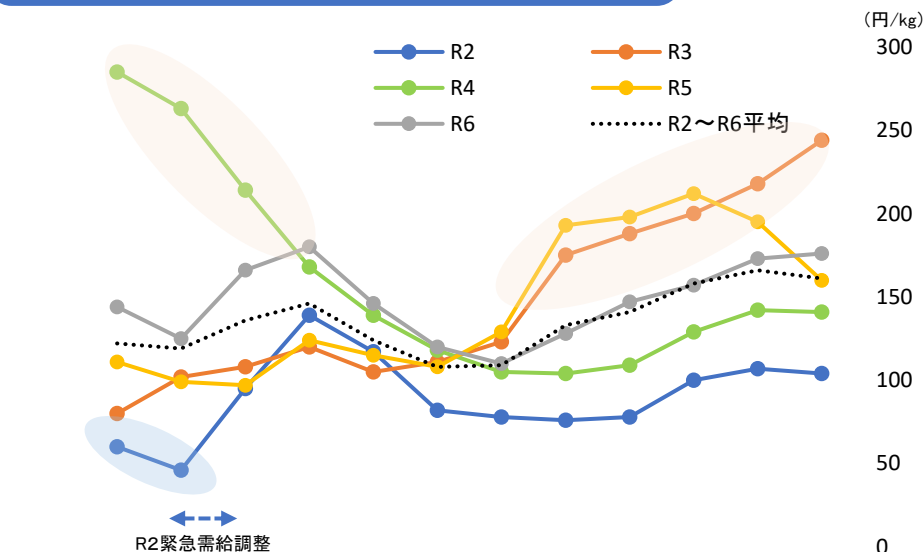


出典：貿易統計・野菜生産出荷統計

たまねぎの生産・価格等動向②

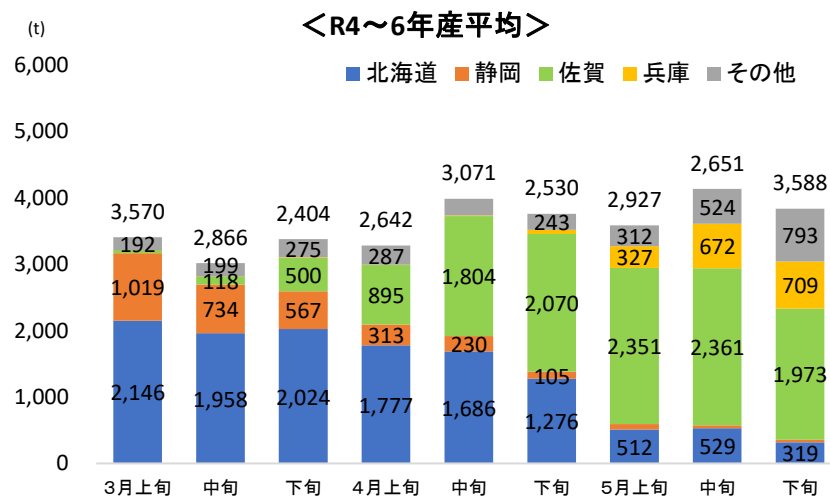
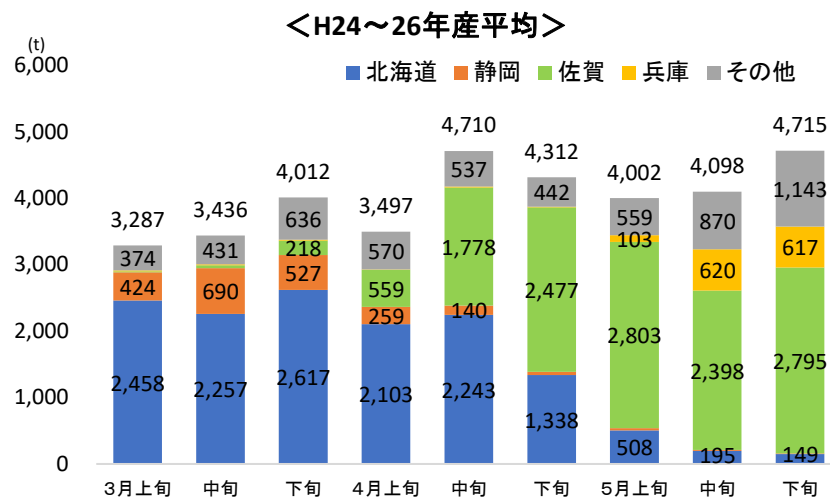
- 令和3年10月から令和4年度、令和5年10月から令和6年2月にかけて、夏季の高温・干ばつの影響により、高値傾向で推移。
- 北海道、佐賀等で豊作だった令和2年産は春先に大幅な価格低落が発生し、緊急需給調整事業を発動。

5. 東京中央卸売市場における価格と出荷量の推移



出典：青果物卸売市場調査

6. 東京中央卸売市場における出荷量の変遷(11月上旬～1月下旬)

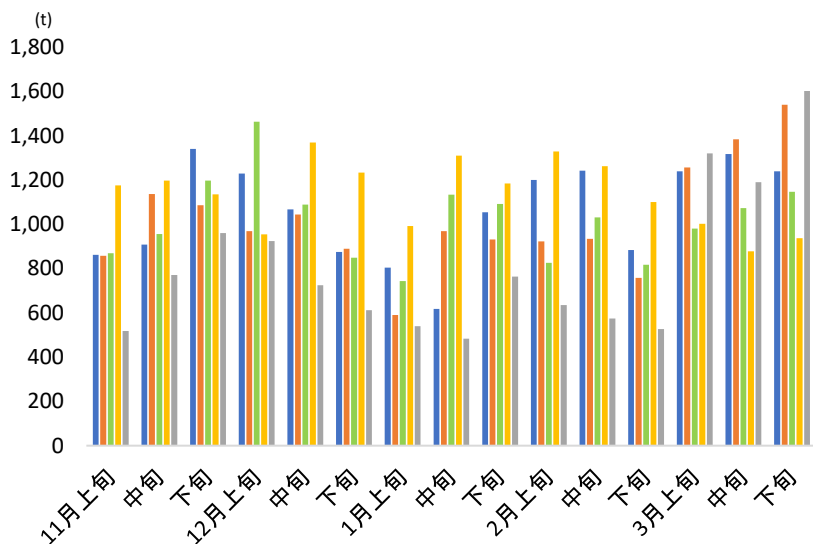
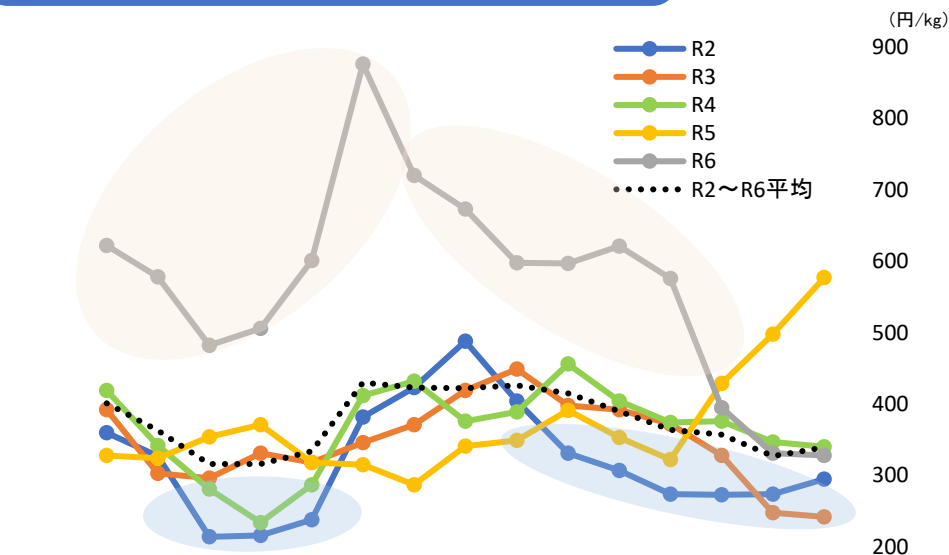


出典：野菜生産出荷統計

冬ブロッコリーの生産・価格等動向

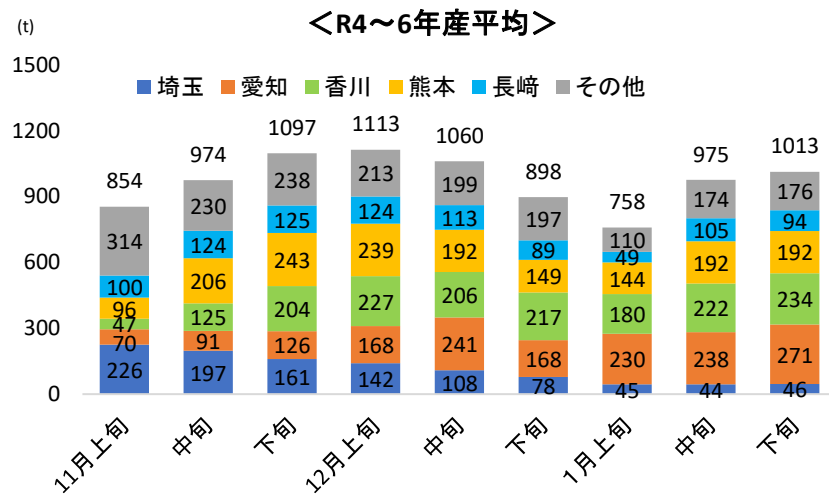
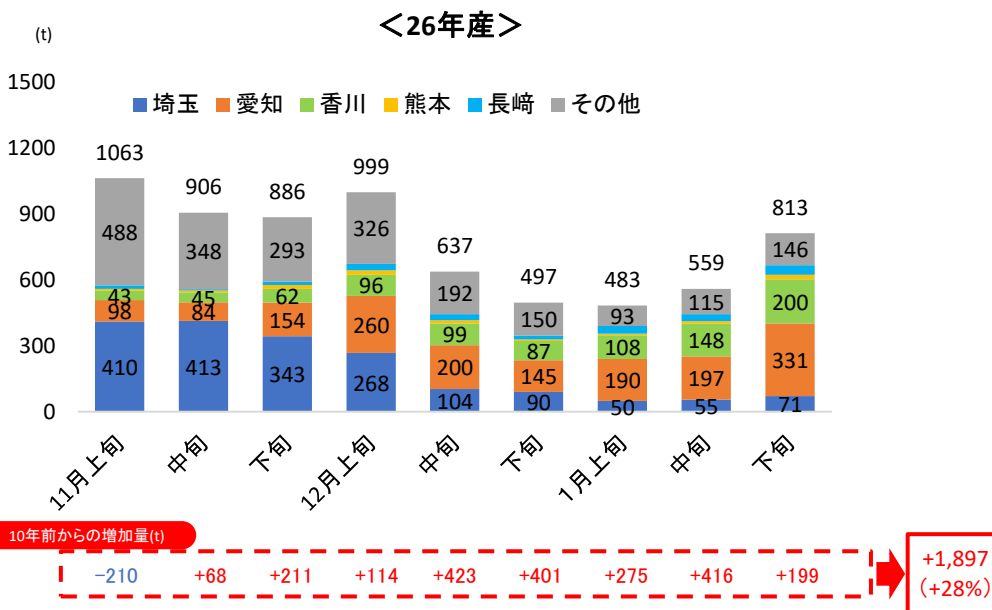
- 近年、出荷期間全体を通じて、安値が続く年が多くなる傾向がみられる。特に 11月から12月前半、1月後半から3月にかけては出荷量が増加し、安値が続く年が多い傾向。
- 令和6年産は夏秋季の高温、12月から2月にかけての少雨の影響により、出荷量が減少し、価格が高騰。

1. 東京中央卸売市場における価格と出荷量の推移



出典：青果物卸売市場調査

2. 東京中央卸売市場における出荷量の変遷(11月上旬～3月下旬)

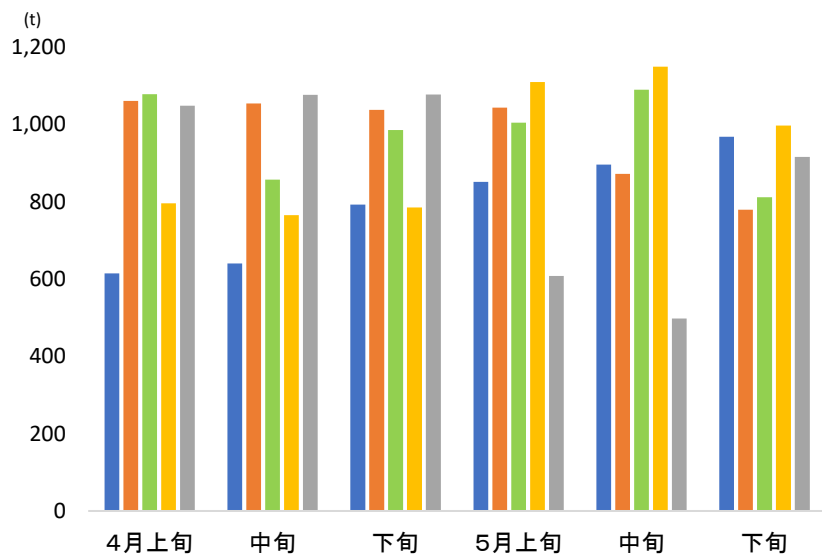
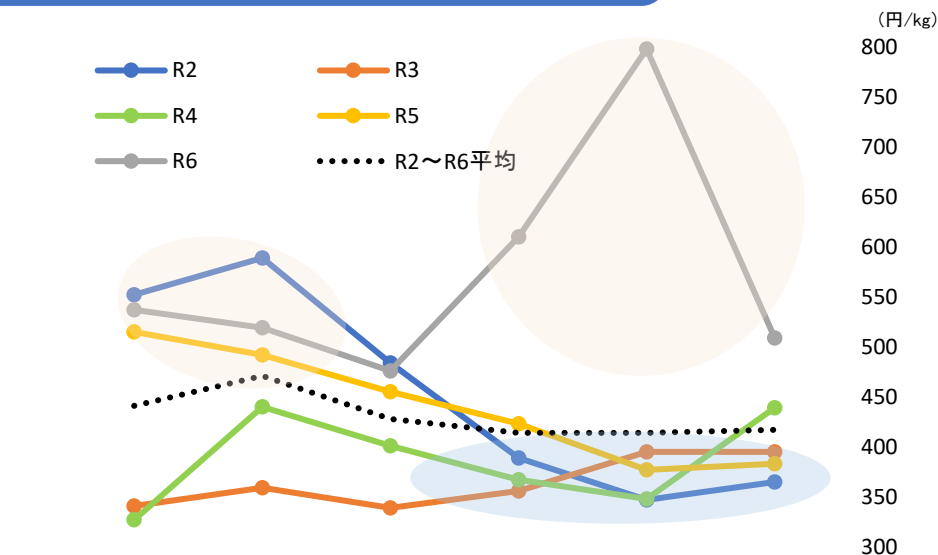


出典：野菜生産出荷統計

春ブロッコリーの生産・価格等動向

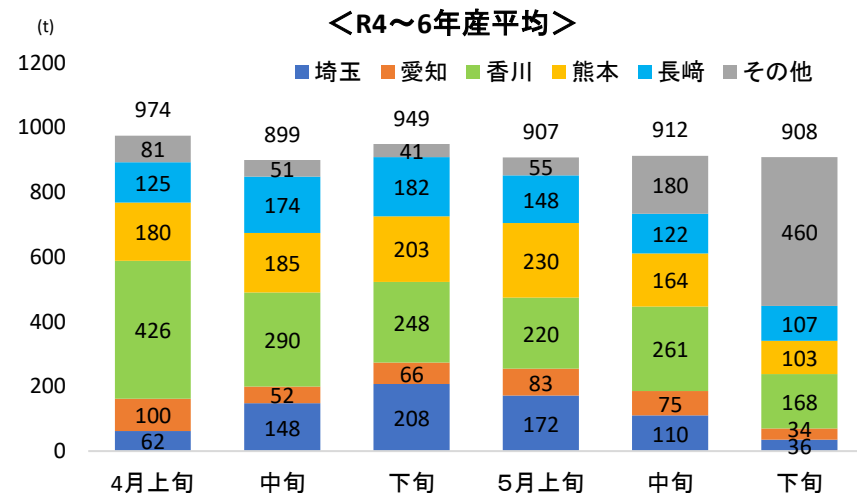
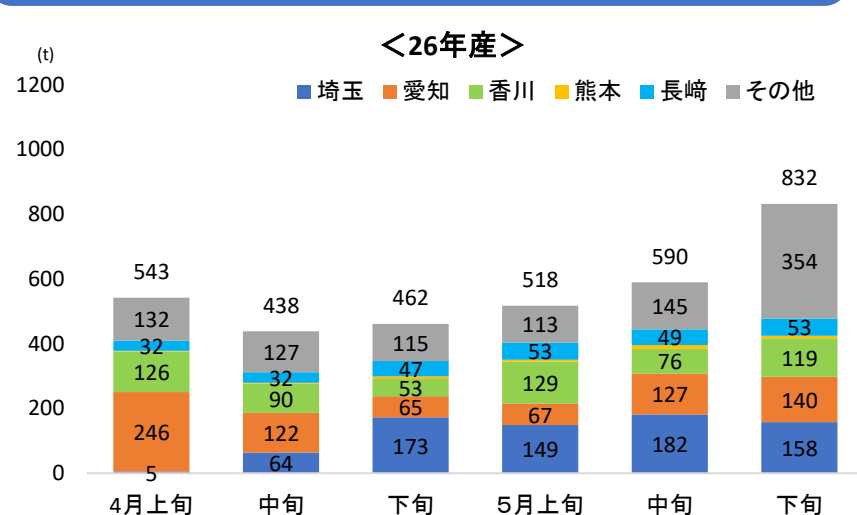
- 2月から3月にかけての低温の影響によって生育遅延等が生じ、その後の気温の上昇とともに出荷量が増加し、安値となる年が多い傾向。
- 令和6年産は、2月から3月にかけての低温、4月の天候不順の影響により、出荷量が減少し、価格が高騰。

1. 東京中央卸売市場における価格と出荷量の推移



出典：青果物卸売市場調査

2. 東京中央卸売市場における出荷量の変遷(4月上旬～5月下旬)



出典：野菜生産出荷統計